

米長期金利上昇は米国株の逆風となるのか？



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米長期金利上昇は米国株の逆風か？

ここに来て上昇基調を強める米長期金利が米国株の逆風になるのではないかとの見方が投資家の間で高まっています。市場では米原油先物相場が連日で昨年11月以来の高値を更新するなど、エネルギー価格の上昇や底堅い米経済を背景に米長期金利が高止まりする可能性が意識されています。

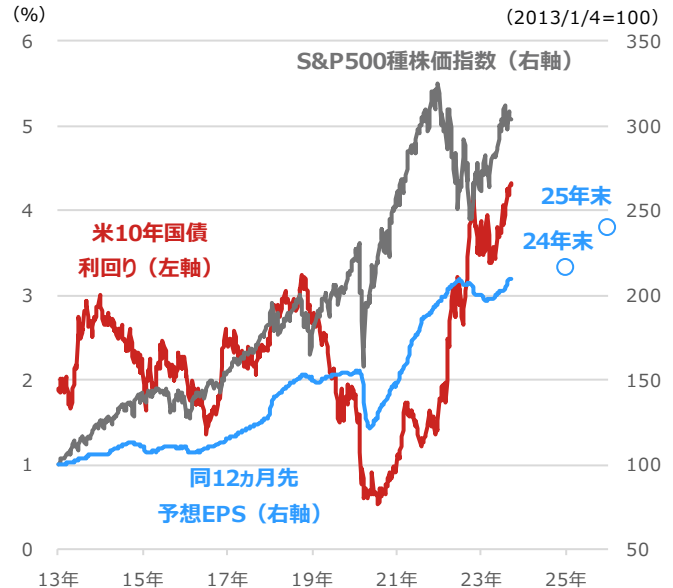
もっとも、過去を振り返ると米長期金利の上昇が必ずしも米国株の重荷になってきたわけではありません。米長期金利が上昇していたとしても、それが米経済の堅調さを表していることも多く、S&P500種株価指数の12ヵ月先予想EPSの拡大基調が続いている局面では、米国株の上昇は継続する傾向があります（右上図）。足元の動きをみると米長期金利は確かに上昇しているものの、米国株のEPSも拡大基調に転じており、市場では25年末に向けて業績拡大が続くとみられています（同図）。

ポイント② 堅調な米経済受け業績拡大続く公算

FRB（米連邦準備制度理事会）による高金利政策が続くなかでも、米景気が予想以上に底堅いことは、米企業業績の先行きをみる上で支援材料といえます。アトランタ連銀が算出している「GDPナウ」によると、7-9月期の米実質GDP成長率は14日時点で前期比年率4.9%となっており、4-6月期の同2%程度の成長率から伸びが大幅に加速するとみられています（右下図）。

6月末時点の米家計金融資産は約117兆米ドルと過去のトレンドからみて15兆米ドル程度上振れしており、米GDPの過半を占める米個人消費を取り巻く環境は良好といえます。堅調な米経済と企業業績を背景に、米長期金利上昇局面でも米国株が買われる流れは継続しそうです。

米10年国債利回り・S&P500種株価指数・同12ヵ月先予想EPS（1株当たり利益）



期間：2013年1月4日～2023年9月18日、週次
●印は2024年末、2025年末のBloomberg予想（2023年9月18日時点）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

アトランタ連銀GDP（国内総生産）ナウと米実質GDP成長率



期間：（アトランタ連銀GDPナウ）2020年12月31日～2023年9月14日、日次
（米実質GDP成長率）2020年10-12月期～2023年4-6月期、四半期
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。